



発行日：2022年 5月 31日



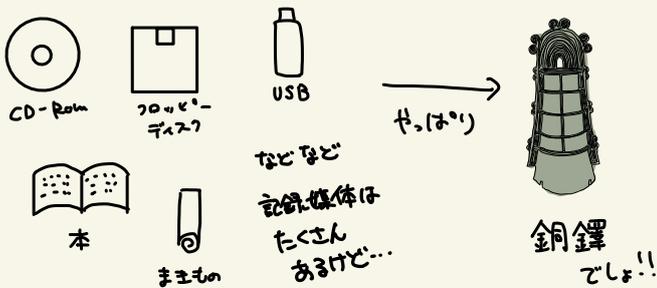
発行：朝日塾中等教育学校 理科

アカハライモリの文献記録4

前回から引き続き、今回の新聞も文献調査です。もうそろそろいい加減にしろと思われるかもしれませんが、これで最後（の予定、あくまでも予定）です。

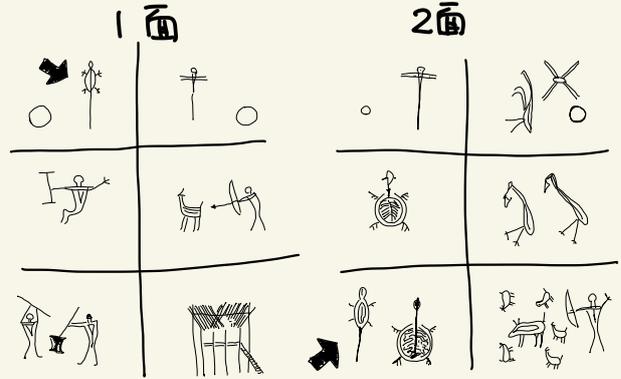
ここまでくると、アカハライモリの最古の記録はなんだろう・・・と気になってきますよね。書物の最古記録（日本）は前号で紹介した『和名類聚抄』あたりになりそうです。それ以前ですと、紙での記録はなかなか残っていないだろうと思われます。

では、もっと古い記録はどんな媒体に記録されているのでしょうか。



銅鐸とは、弥生時代に祭礼に用いた青銅製のベルのことで、近畿地方を中心に出土していますが、中国地方から長野県にわたって見つかっています。その銅鐸の中には、絵が描かれているものもあります。（詳しくは、社会の時間や日本史の授業で習ってください）。

伝香川県出土銅鐸という国宝に指定された銅鐸があります（東京国立博物館所蔵）。この銅鐸には、2面×6コマの絵があります。



伝香川県出土銅鐸に描かれているのは、1面では左上からトカゲ、トンボ、道具を持つ人、シカを狩る人、杵をつく男女、高床式の家です。2面には、左上からトンボ、カマキリとクモ、スッポン、水鳥、スッポンとトカゲ、イノシシを射る人とイヌだそうです(国立文化財機構所蔵品統合検索システムより)。黒い矢印で示したのはトカゲとされている動物です。しかし、別の資料によるとイモリとされていたり、はっきりしません（桑原 2020）。

この銅鐸に描かれているのは、農耕文化を示す絵のようです。杵をついているようすや、高床式の建物などは稲作を連想させます。水鳥は水田によくいるサギのようにも見えますね。

アカハライモリは、水田にも生息しています。銅鐸に描かれているのは、農耕を含めた人々の生活のようすなので、イモリが描かれているという可能性もあるのではないのでしょうか・・・？

参考文献

桑原久男. 2020. 銅鐸と弥生土器の図像表現は視覚化された「神話」か?. 万葉古代学研究年報第18号. 15-19.